■ 具体的な内容

具体的に街中へ活動の範囲を広げるにはどのような事柄があるか見ていきます。

現状活動として「② 街へとの繋がり」には・公共施設での展示・絵葉書販売
「③ 住民との繋がり」には・ワークショップ、ギャラリートーク・裸婦絵画教室（シンフォニーアトリエ）を実施しています。

➡ これから派生させ更に広げていくには・・・
② 街へとの繋がり　・住区センター展示　・街角美術館（商店展示）　・国際交流展
③ 住民との繋がり　・カルチャー教室　・ワークショップ　・講演会　・座談会

- 絵画教室：　油彩　水彩　日本画　アクリル画　水墨画　剪画　絵手紙　etc
- 工芸教室：　陶芸　彫金　鍛金　七宝焼き　革工芸　etc
- 手芸教室：　裁縫　編み物　刺繍　パッチワーク　人形　アクセサリー　etc

■ 叩き台としての私案

＜思い＞
戦後、人々は豊かな生活と職を求め都市部に出て来ました。引き替えに大家族と地域コミュニティーを手放しました。
そこで得たものはしがらみから解放された自由と孤独です。これが望んでいた生活なのだろうかと考えてしまいます。
いきいき生活出来る日常や地域を生み出すには我々に何が出来るのだろうか？
芸術や文化の役割は人や環境に対してのつなぎ役と緩衝材です。
適度な「つながり」と「しがらみ」を醸成出来るコミュニティーを作れればいいなと思うようになりました。
以下がその私案です。

・コミュニティー広場開設の提案

➡ 葛美会が主体となって多目的ルームを運営

名称：　アートな広場（仮称）
目的：　アートや文化活動を通して区民との繋がる場を提供
場所：　区内空き店舗
開設資金：　区の助成金？クラウドファンディング？寄付？
運営資金：　葛美会計？収益金？
内容：　・レンタルギャラリー（作品の展示や販売の場を提供と主宰）
・レンタル教室（住民が主宰する手芸等教室やワークショップ用など）
・レンタルBOX（工芸品やアクセサリーの販売用に）
・委員会などの会合の場として使用　葛美会の備品などの保管場所
・etc
運営：　葛飾区美術会→NPO法人化？

最大の問題は 自分たちで自由に使える拠点 **の確保**